

福井県の低地ブナ林 4 大滝神社奥ノ院—標高 280 m—

*大久保 嘉雄

越前市大滝町の大滝神社奥ノ院のブナ林は権現山（標高 326 m）の山頂付近、標高 270 m～320 m に広がっている（図 1）。新羅神社（標高 200 m）や勝山市平泉寺（同 250 m）の低地ブナ林より標高が高いが、記録温度計から求めた暖かさの指数は 98.8 と最も高温のブナ林である（大久保 2008、図 2）。吉良（1976）のブナ林の暖かさの指数の上限値 85 からは大きく外れているが、冬の積雪が生育を可能にしていると考えられる。低木層が伐採されたりスギ林の中に点在しているところもあるが、その面積は約 3 ha と他の低地ブナ林より大きい。低標高でアプローチが短く、ブナ林の雰囲気に入ることのできる貴重な林である。

この一帯には南北朝時代の山城である大滝城が築かれていた。暦応 4（1314）年に北朝方に攻められて陥落、その後復興したが、天正 3（1575）年に織田信長越前攻略の際に焼亡させられたという（小林 2018）。その頃にはブナ林の中に建つ城だったのだろうか。現在のブナ林を歩くと、はっきりと曲輪や堀切の跡が分かる。

大滝神社奥ノ院（標高 290 m）に行くためには、重要文化財の大滝神社本殿（標高 70 m）から参道を 20 分ほど登らなければならない。駐車場は本殿の奥にある。参道は整備されているが、急な山道なのでゆっくり登るとよい。途中の谷間にあるゼンマイザクラと奥ノ院の左上部にある大スギ、社叢であるブナ林は県指定天然記念物である。ゼンマイザクラの花の見頃は 4 月上旬で、林床にはカタクリやキクザキイチゲも見られる。

約 3 ha のブナ林をその相観から「①純林」、「②スギ混交林」、「③スギ混交下刈り林」、「④尾根道林」の 4 つと、スギ林にブナの低木が点在する地域「⑤スギ林点在」に分類した（図 3）。2006 年と 2010 年に樹高約 2 m 以上のブナの胸高直径を測定した（大久保 2011）。それぞれの林における胸高直径の度数分布図は図 4 のようである。

存続性のある林は次世代の低木が育っている逆 J 字状の曲線を



図 1 越前市大滝町の大滝神社奥ノ院のブナ林の位置

国土地理院 2.5 万分の 1 の地形図を利用した

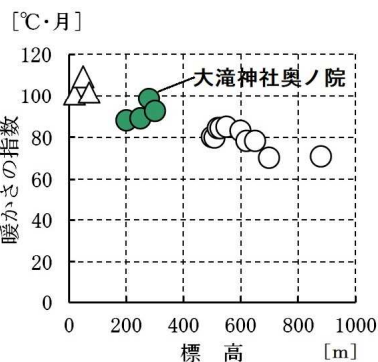


図 2 標高と暖かさの指数の関係

△照葉樹林 ●低地ブナ林 ○ブナ林

* 福井県あわら市花乃杜一丁目 15-22

描く。②「スギ混交林」のような曲線である。①「純林」と③「スギ混交下刈り林」は幼木が少なく、④「尾根道林」は高木が少なくブナ林の形態をなしていない。ブナの幼木が多数存在する「③スギ混交下刈り林」や「⑤スギ林点在」では、しばらくは生き残っていくだろう。それが、ブナ-スギ混交林として存続するか、ブナの純林に変わるかは予測できない。

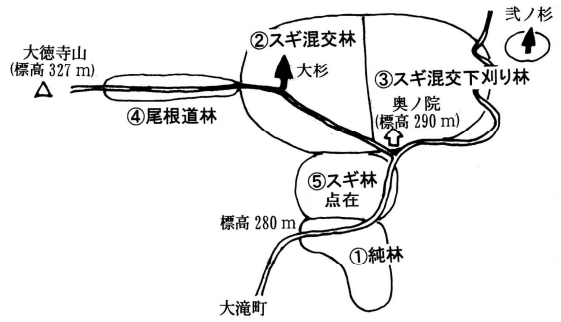


図3 大滝神社奥ノ院付近のブナ林

①純林

奥ノ院の手前の南西斜面に広がるブナを優占種とする林である。高木層にシラカシやイヌシデ、アベマキを含む。面積は約0.4haである。

1980年にリタートラップを設置したときに下刈りの痕跡があった。低木のヒノキがあるので植栽のために下刈りしたと推測する。その後に低木層に多種が回復しているが、ブナの低木は斜面下部に1本あるだけである。少なくとも40年前から実生が育たなかったことを示している。低地で小面積であるため堅果に「しいな」が多い上に、南西斜面なので乾燥しやすいことが実生の生き残りに悪影響を及ぼしていると考えられる。

②スギ混交林と③スギ混交下刈り林

奥ノ院の北のゆるやかな尾根に、約50mの幅で広がるブナとスギの混交林である。高木層にミズナラやイヌシデ、トチノキを含む。面積はそれぞれ約1.2haである。

②は低木層があり、飛び地である二ノ杉付近のブナも②に入れた。

③は低木層を刈り取って公園のようである。下刈りの時期が①より遅かったのだろうと推測する。

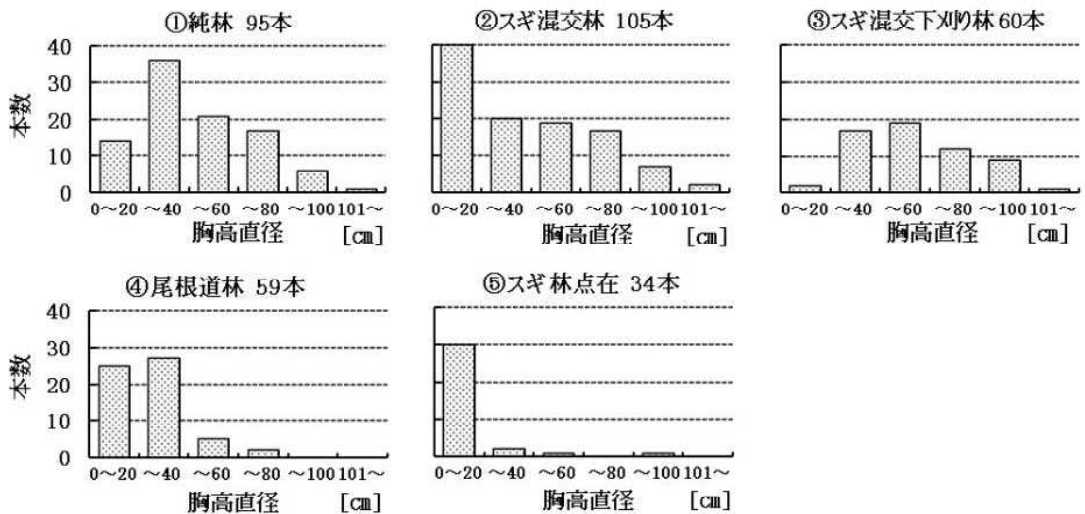


図4 5つのタイプの林におけるブナの胸高直径の度数分布図
名称の横の数は樹高約2m以上のブナの本数である

また、ヒノキの植栽はなく、植栽者の名前を書いた札付きのカエデやケヤキの植栽があった。ブナの堅果の発芽や稚樹の生育のために下刈りした後、他の落葉広葉樹も植栽したと考えられる。林学では、ブナ林管理の方法として下刈りを行う。林床を明るくすれば、発芽や実生の成長がよくなるという理由からである。しかし、ここは暖かさの指数が98.8と福井県で最も高温の低地ブナ林である。①のように林床の乾燥を招いて逆効果にならないか心配である。積雪量も少なくなり、春にも湿潤な林床を保っていないと想像する。

④尾根道林

奥ノ院の北西の大徳寺山（標高327 m）に続くゆるやかな尾根道に、約10 mの幅で帯状にブナが点々と生育する林である。両側にはスギ植林があり、低木から高木のブナとミズナラ、イヌシデが混ざった雑木林の様相を示す。面積は約0.2haである。

登山道沿いに下刈りが行われたと推測される。①③と比べると胸高直径が20 cm未満の本数はかなり多いことから、大がかりな下刈りではなかったことが伺われる。

⑤スギ林点在

①「純林」と②「スギ混交林」の間にあるスギ林に、低木から亜高木のブナが生育する。高木層にアベマキやイヌシデを含む。面積約0.4haである。

大滝神社奥ノ院のブナ林を愛する人々が、林床の所々にブナを植栽している。天然更新を待っていないのだろう。その意味と地球温暖化を考える機会にすれば、このブナ林が存続できない方向へ歩もうとも、環境の保全の一里塚となるだろう。

参考

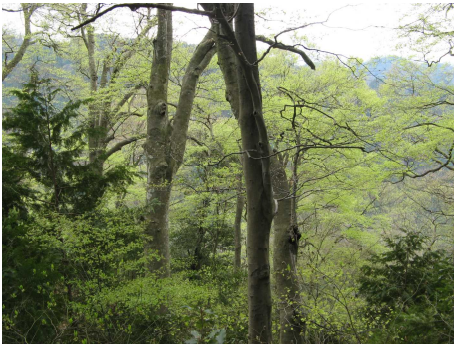
吉良龍夫ら. 1976. 日本の植生—世界の植生配置の中での位置づけ. 科学 46(4) : 235-247.

小林博之. ふくいの山城へいざ! 大滝城跡 (越前市). 福井新聞 2018年9月27日

大久保嘉雄. 2008. 福井県のブナ林の下限は標高何mか. 福井県高等学校理科研究会誌 51 : 32-36.

———. 2010. 嶺北地方のブナ林における実生の5年間の生存過程. 福井県高等学校理研会誌 53 : 31-35.

———. 2011. 越前市大滝神社奥ノ院のブナ林の構-樹高約2m以上-. 福井県高等学校理研会誌 54 : 25-30.



① 純林 2010. 04. 06



② スギ混交林 2010. 04. 06



③ スギ混交下刈り林 2010. 04. 06



④ 尾根筋林 2010. 04. 06



⑤ スギ林点在 2010. 04. 06



大スギ 2010. 04. 06



ゼンマイザクラ 2010. 04. 06



カタクリ 2010. 04. 06